

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 まなびパークたじみ 4F TEL 0572-23-3455 FAX 0572-26-8813

指導日誌より

= 多治見地区 =

陶器祭りがあり、人出は多かった。親子づれの小中学生や高校生とあいさつした。(4/11 共栄 3)

雨のため、人と会うことも少なかった。駅では西高の生徒がすてきなあいさつをしてくれた。(4/14 小泉 5)

まなびパークで勉強している高校生や、多治見駅周辺でもいつもより人出が多く、たくさんの声かけ、あいさつができ、久しぶりに楽しく感じました。(4/14 南姫 9)

小中学生とも早帰りだったが、良い天気であり公園、公民館、児童館で遊ぶ姿が見られた。遊ぶ児童からも元気なあいさつが多くあった。(4/16 養正 1)

多治見駅周辺の駐車場などのやや人目の死角になる所や、100 円ショップ、書店などの子どもがいそうな場所を回りました。帰宅や塾へ通う高校生が多く、皆きちんとした身なり行動で問題ありませんでした。(4/16 根本 10)

今回は脇之島小学校の集団下校(4~6年)に夫々各班に分かれ同行。異常なし。皆元気なあいさつがあった。(4/16 脇之島 12)

私たちのベストを見て、子どもたちが先にあい

さつしてくれることが多くなった。子どもたちの声は元気だった。(4/25 北栄 1)

日曜日で天気も良く太平公園、太平児童館とも大勢の人や子どもたちがいました。小学生が公園内を自転車走行していたので注意したが行ってしまった。(4/26 池田 6)

= 瑞浪地区 =

天気が悪く学校の入学式前ということで、生徒や若者の姿は見られなかった。人出も少なかった。(4/6 土岐 C)

さくら散歩道にて花見客にあいさつ声かけ。バロー裏 19号地下通路の落書きは市により消してもらいきれいになった。(4/7 瑞浪 A)

新 年生が入学し、とても元気にあいさつを返してくれました。2年生、3年生も昨年の4月と比べると慣れてきました。まだ照れて声の小さな子もいますが進歩しています。(4/15 陶 E)

駅は閑散としていたが、途中で駅に向かう多くに高校生や帰宅する学生がいた。川沿いの道ではウォーキングする人たちを見かけたが、皆夜光タスキをかけていて遠くからでも認知することができた。(4/15 明世 H)

新学期が始まり20時近くでも帰宅中の高校生

4月 声かけ活動の結果

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合 計
指 導 人 数	2	2	8	12
声 かけ 人 数	510	91	247	848
指 導 員 参 加 者	65	28	31	124

が駅前にたくさんいた。部活のジャージ姿や大きなスポーツバッグを持つ生徒が多い。気を付けて帰るように声をかけると「ありがとうございます。」の返事もあり、さわやかさを感じた。(4/23 日吉 1)

= 土岐地区 =

先月原付バイクが放置してあった付近にブルーシートが掛けられた塗料の缶が置かれており、気になりました。(4/1 泉 9)

書道教室に来ていた子どもたちに、声をかけました。親の迎えを待っているところでした。(4/9 駄知 6)

音の大きいバイクの2人乗りを駅前で見かけた。駅前の旧交番前の白線内に駐車して巡回したところ、バスの運転手から苦情があった。止めて良いのかダメなのかはっきりしたい。(4/14 土岐津 1)

新 年生が加わり、他の学年も進級したことで、気持ち新たな元気なあいさつをしてくれる子が多かった。自転車の乗り方、横断歩道の渡り方もよく、見ていて安心だった。(4/15 鶴里 4)

児童館の先生から「新 年生が元気に遊びに来ている。」との話を聞いた。この日も数人が迎えの人と一緒に帰るところだったが、元気にあいさつをし

てくれた。駅前にいた高校生も気持ちよくあいさつを返してくれるのが多かった。(4/16 肥田 7)

19時前後の暗い時間帯で人影は少なかったが、山神地区でテニスの部活から帰る高校生の集団が通った。しばらくの間見守った。(7/24 下石 2)

「ダメな子」はいない

ひとこと

『「ダメな子」とか、「わるい子」なんて子どもは、ひとりだっていないのです。もし、そんなレッテルのついた子どもがいるとしたら、それはもう、その子たちをそんなふうに見ることしかできない大人たちの精神が貧しいのだ。』

漫画家の手塚治虫さんのことばです。子どもの目線を大切にしたい人らしいことばです。こんなことばもありました。

『数えきれないほど、悔しい思いをしてきたけれどその度にお袋の「我慢なさい」と言葉の思い浮かべて、なんとか笑ってきたんです。』

< センターから > 平成 27 年度の委嘱式が開催されました

5月9日瑞浪市総合文化センターで、今年度の指導員200名の皆さんへの委嘱状が交付されました。指導員の皆さん、今年度も来年4月までの1年間、子どもたちや青少年の育成支援にお力添えをよろしくお願い致します。今回の「月だより」の活動報告は26年度の指導員さんの実施結果ですが、新任の方にはどんな活動を行っているか参考になると思います。4月の活動結果は指導人数が3地区全体で12人となり、3月の0人と比べ増えました。子どもたちは卒業や進学、新学期、新しい生活を迎えて心身ともに不安定になったり、行動が開放的になったりしているのでしょうか。指導の内容は、おそらく免許取りたてなのでしょうがライトバンの荷台に乗る等の車の定員オーバーの事例がありました。他に、喫煙と自転車の無灯火や危険運転がありました。駅前でたばこを吸っている少年に出会いました。話してみると高校を中退したとのこと。「タバコは美味しいか？」と聞くと「美味しい訳じゃない。」と言いますが、やめる気配はありません。「その内、歯の裏どころか肺の中まで真っ黒になるぞ。」と話してみましたが、もちろんそんな脅しが効くはずありません。彼らは悪いと思っていなし、そんな先のことまで考えていないのですから。「自分はもう子どもじゃない。」と主張したいのです。そんな彼らに本当の「大人になること」を理解させることは容易ではありません。時間はかかりますが、自ら身に付けていくことを待つしかないでしょう。そのために声かけは必要です。直ぐに効果が見えなくても、それが大切です。そうでないと、良くない仲間や良くない大人に声をかけられ、それに染まっていってしまう危険があります。声かけは上から目線ではなく、自分の善悪の基準を一旦おいて彼らの基準に合わせることで、彼らの態度を聞く姿勢に変える、数少ない方法のひとつだと思います。

【お知らせ】7・8月と夏休み夜間特別活動の「声かけ活動予定表」は次回6月にお届けします。